

平成31年度 生徒指導部会研究計画

1 研究主題

子どもたちが集団の一員として自己実現をめざす生徒指導
～ 今日的な生徒指導上の課題解決に向けて ～

2 研究主題の設定について

今日の社会は、高度情報化やグローバル化の急速な進展、人工知能などの科学技術の進化により急速に変化している。そのような社会の中で、一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。

生徒指導は、子ども一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めるとともに、子どもの健全な成長を促し、現在及び将来における自己実現を図っていくために必要な自己指導能力の育成を目指して行われる教育活動である。自己実現とは、単に自分の欲求や要求を実現することにとどまらず、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築き、自己のよさを集団や社会の中で生かしていこうとするものである。

これまでの県生徒指導研究大会では、自己指導能力を育成するために、生徒指導の3つの機能（①自己存在感を与えること、②共感的人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を支援すること）を生かした教育活動について実践・研究に取り組んできた。

平成29・30年度においても、この3つの機能を基盤として、生徒指導提要に挙げられている「学業指導」に着目し研究が進められた。それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し社会性を身に付けたり、主体的・対話的で深い学びの学習活動に取り組んで学力を向上させたりして自己実現（社会的自立）を図っていくための指導・支援に取り組んできた。

つまり、「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かして、児童生徒一人一人を成長させるという考えに基づき、集団への帰属意識を高め、お互いを高め合うことができる「学びに向かう集団づくり」に取り組むと同時に、子どものコミュニケーション能力をはぐくみ子どもが自信をもてるようになる「子どもが意欲的に学習に取り組む授業づくり」にも取り組んでいく。そして、その双方を効果的に関連させながら、自己指導能力の育成に取り組んできた。

一方、今日の学校教育の場で起こっている生徒指導上の課題は極めて多種多様である。例えば、従来から起こっている課題に加え、社会状況の変化に伴ってインターネットのトラブル、携帯電話やスマートフォンの使用上のトラブル、児童虐待などの課題が深刻化してきている。このような課題の背景には、子ども自身の特性、学級や学校の実態、家庭や地域、そして社会の環境などが複雑に絡み合っている。もちろん子どもや地域の実態によって差異はあるものの、今日ではどの学校でも避けられない課題となっていることは確かである。その課題に対して、子どもが「自分」と向き合い解決していこうとする態度や力、また「仲間」との関わりや「仲間」を通して解決していく態度や力を身に付けることが大切である。

そこで、今年度は平成29・30年度に取り組んだ学業指導に視点をあてた研究と重ね、今日的な生徒指導上の課題を「自分」「仲間」「学び」という視点でとらえることにする。そして、研究を進めるにあたり、「成長を促す指導」「予防的な指導」、そして「問題解決的な指導」を目的として、効果的な方策を探り、県内の指導者が共有できるように研究を進め、主題に迫っていきたい。

3 研究の視点について

(1) 「自分」と向き合い課題解決していく指導・支援のあり方

子どもは、一人一人異なった個性をもっているとともに、それぞれ置かれた生育条件や環境条件も違う。したがって、子どもの資質や能力の育成とともに、社会的な自己実現が図られるようにするために、その背景を理解することが必要である。また、その背景に伴って起こる学習や生活への不適応についても、子どもが自分自身の力で解決できるように、不適応の原因を分析し、一人一人の事情に即した適切な指導を行うことが求められる。ここでは、個性を伸ばすことや、自身の成長に対する意欲を高める「成長を促す指導」に重ね、初期段階で諸課題を解決する「予防的な指導」を関連させながら、子どもが「自分」と向き合い課題解決をしていく指導・支援のあり方を探っていきたい。

【具体的研究の方策】

- ・スマートフォンや携帯電話での SNS 等アプリの使用上のトラブルの回避の指導・支援
- ・インターネットのトラブルの回避の指導・支援
- ・自殺防止など生命尊重を指導する予防教育のあり方
- ・思春期の悩みなどの効果的な心の教育のあり方
- ・ソーシャルスキルトレーニング等の効果的な社会的スキルの指導・支援 等

(2) 「仲間」との関わりや「仲間」を通して課題解決していく指導・支援のあり方

学校生活では、様々な集団活動を通して、規範意識、思いやり、助け合い、責任感など社会生活に必要な資質を学んでいく。そして、その集団の質を高めることにより、学級の中で起こる様々な課題を、自分事として、それぞれがもちうる力を最大限に発揮して解決していくことができるようになる。このように、学校生活の中で、子どもが、学校・学級という集団において望ましい人間関係づくりができるように、そして、その質を高め、常に仲間としてどうあるべきかと互いに向き合うあえる集団となるような指導・支援についての方策を探っていきたい。

【具体的研究の方策】

- ・共感的な人間関係をはぐくむ「心の居場所」がある集団づくり
- ・いじめを許さない学級づくりや仲間づくり
- ・人権教育の取り組み 等

(3) 「学び」に視点をあてた指導・支援のあり方（学業指導）

子どもの学校生活の基本は、言うまでもなく日々の授業である。一人一人の特性に配慮した授業を通して「わかる喜び」を感じ、困った時はそれを支援する教師や友達が常に周りにいる環境が整っている。そして、自他ともにその存在を認め合い、一人一人が大切にされお互いに高め合う集団となっていることが望まれる。このように、「授業づくり」と「集団づくり」の相互の関連を図りながら、自己実現を図っていく今までの研究を引き継いでいく。特に、今年度は子どもの特性や生活背景に注目し、指導・支援に取り組まれることが望まれる。

【具体的研究の方策】

①学びに向かう集団づくりの方策

- ・帰属意識の高い集団、規範意識の高い集団、互いに高め合える集団 等

②子どもが意欲的に取り組む授業づくりの方策

- ・自信をもたせる授業、コミュニケーション能力を育む授業、一人一人に配慮した授業 等

【参考・引用文献】 文部科学省（2017）学習指導要領 文部科学省（2010）生徒指導提要